花栗中だより

令和６年２月２日　第１１号
草加市立花栗中学校　生徒数３７９名

教育目標　　自ら考え　心豊かに　たくましく生きる
◇学力を伸ばす生徒（知）　◇豊かな心を育てる生徒（徳）　◇心身共に健康な生徒（体）

不易と流行

教頭　橋　本　　哲

「不易と流行」とは、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅をする中で体得した概念だと言われています。「どのように時代が変わっても，決してその価値が変わらないもの」を「不易」、一方「その時代の移り変わりとともに変えていく必要があるもの」を「流行」と言っています。

私は今から３０年も前にクラス担任を初めて任された当時、ある教育書の中で「厳しさのない優しさは甘えにつながる」というフレーズを目にしました。その当時も、生徒に「厳しく接する」「褒めて伸ばす」「最近の子どもは」のような話が教育界を中心に話題になっていましたが（今も絶えませんが）、自分はこのフレーズは「不易」にあたるものと考え教育を進めてきました。

学校や社会で体罰やパワハラなどが問題になる昨今、学校でも大きな声を張り上げて指導する（怒鳴る）ことは、**流行**らなくなっています。むしろ良くありません。

ただ「厳しさ」と「叱る」ことの意味を踏まえると、「叱る」とは「良くないことであると強く注意し、**厳しく**言い聞かせる」とあります。悪いことをしたらやるべき事を怠ったら「叱る」、これはとても大切な価値であると思います。

教師が厳しく接することなく、生徒に手取り・足取り・先回りしてハードルを一層低くしてクリアさせる指導を時々見かけます。学校で厳しさを教えないまま、社会に子どもを送り出して、その先の競争社会である苦境を強いられた現実を突きつけられた場面、力強く生きていけるか心配になります。配慮も必要ですが、学校は楽しいところ、魅力ある学校に通いたくなることと同時に、厳しさも教えなければ自立した子どもは育たないと考えます。その厳しさの先の充実感や達成感に楽しみを見いだす指導が大切であり、生徒と教師、生徒同士、相手の意見や考えをすべて受け入れるだけが**優しさ**ではなく、時には厳しくあること、接することが結果として**優しさ**につながります。すべて受け入れるだけの**優しさ**は、「甘えん坊」を育ててしまいます。

ご家庭ではどうでしょうか？最近、大人でもスマホに夢中になりついつい時間の過ぎるのも気にせずいじっています。時代の流れなのかと感じます。一例ですが、スマホやゲームを楽しんでいる子どもに、夕食だからスマホやゲームを止めさせてから、「夕食食べなさい」と言っていますでしょうか？夢中になっている子どもに「むげにスイッチを切らせるのも難しい」と考えて、渋々いじらせていませんでしょうか？「夕食を摂りなさい」と指示したら、その指示が通るようにスマホやゲームを中断させて指示をしていますでしょうか？「手を洗ってから食事にしなさい」と指示しても、洗わず食べている子どもに手を洗わせてから食べさせるように再度やり直しをさせているでしょうか？すぐにやり直しをさせると子どもは機嫌を悪くし関係が悪くなるのではと思って、流していませんでしょうか。見て見ぬ甘い態度をとっていませんでしょうか。なかなか「だめ」「こうしなさい」を押し通すのは難しいのですが、「ダメ」が「しようがない」として妥協し、こういった対応が続くと指示がただの小言になります。小言は無視されがちです。わがままで横着な子どもに育ちます。小言ならば言わない方が良いと思います。子どもへの指示はよく考え必要最小限が良いと思います。一度出したら守らせることが大切と考えます。これが、今やるべき事またその後の見通しなど持ちどうすれば良いのかという判断力が育ち、子どもの自立につながると思います。なかなか難しいのですが、学校と家庭との両輪で子どもを育んでいきたいです。

よろしくお願い致します。

花栗中学校ホームページアドレス：　https://www.soka-stm.ed.jp/hanaguri-jh/